

2023 年度第 1 回 外洋常任委員会 議事録

1. 開催日；2023 年 5 月 26 日（金）18:00～19:50

2. 会議の場所及び方法：会場と ZOOM による WEB 形式併用

会場：JSAF 事務局（JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9 階）

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、大村雅一 常務理事、望月宣武 常務理事、中村和哉 理事、
萩原ゆき 理事、鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事、
安田大助 理事、沼田浩行 理事、船澤泰隆 理事、

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、坂口城治 通信委員長、
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長
坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、
小山悟 外洋艇登録事務局長

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

議事

大村常務理事の進行で 18：00 より開始した。

都合により、議事の順序を変更して議事に入った。

① 外洋安全委員会

平出委員長より、REACH 規則と PFAS 規制について説明された。

フッ素の使用が制限される内容で、シール材に含まれていて安全備品に大きく関係し、ゴアテックス等が手に入らなくなり、ヨットにも大きな影響があることから、JSAF 内で議論して WS に意見を提出することが提案され、出席者の同意が得られた。

大村常務より、OSR のカテゴリー 2 の 4－30 の非常用ポンプについても、電源等の問題点について WS にサブミッションを出すことが提案され了解された。

② 新規大会創設について

船澤：エネオスの募集に経営企画室から応募されて採択された。

950万円の予算が付き、5月末までに企画書を提出しなければならない。

今年度は予定されている大きな大会をシリーズ化することを考えている。

外洋、ディンギー、パラの中から選んで参加してもらおう。

ドローン式のマークボットを購入してオペレーター付きで派遣することで運営艇を減らし、Co2排出軽減に貢献したい。

決まれば早いレースから対応したい。

大村：会長からジャパンカップを組み込む提案がされている。

フラグシップ大会はJSAF 共同主催レース等の条件があるか。

望月：今年と来年の2年間同じように事業ができると聞いている。

協賛金なので細かいルールが無い。

エネオスはマイナーなスポーツを支援するという意向で、全部で19の団体に支援すると聞いている。

③ 会員管理システムのリニューアルについて

望月：来年3月1日スタートを目標に会員管理システムをリニューアルすることが決まった。

加盟団体の会員管理、チーム（艇単位）機能、大会のエントリー、メジャラー等の資格管理やリザルトもUPすることを検討している。各団体や委員会の協力をお願いしたい。

坂口：3月は会員の更新タイミングで混乱が予想されるので考慮願いたい。

望月：会員の登録は早めにスタートすることを考えている。

加盟団体とタウンホールミーティング月に1, 2回設定しているので、その場で意見や質問を受けたい。

（1）報告事項

① レース運営規則

大村：レース運営規則の第2条第1条に、（2）オリンピック種目全日本大会、もしくはWorld Sailing がオリンピック種目を目指している種目の全日本体大会を追加して理事会に提案する。

② 外洋団体長会議

外洋団体長会議は9月30日に函館で開催し、会場は湯川の函館アリーナを予定していることが石川理事より説明された。

③ 外洋ダブルス 2023

中村：昨年と同じ4艇の参加があり、4月29日～30日にインスペクション、30日に艇長会議、5月1日にスタート、今年は風が弱く3日に全艇がフィニッシュした。

参加艇へのヒアリングでは4艇では寂しいのでたくさんの参加艇が欲しいとの意見があった。

詳細は報告書を参照。

④ 小笠原レース 2023

石川：4月20日～28日まで、三浦スタート、小笠原フィニッシュでJOSAとJSAFの共同主催で開催された。23日にスタート、28日に表彰式が行われた。今回の特徴はOSRカテゴリー2を採用したことである。

スタート前にトライスルとストームジブを展開してチェックインを行った。

7艇がエントリーし、2艇がリタイア、5艇が完走した。

リタイアの理由はクルーの顔面強打による鼻骨の骨折と、ブームの破損によるもの。

ブームの破損艇はプロペラにシートが絡み、トライスルとストームジブのセーリングで八丈島に避難した。

成績は、オーナーと女性クルー2名の3名で参加した貴帆が、2日10時間27分37秒のコースレコードで優勝とファーストホームを勝ち取った。

鈴木（保）：小笠原高校と中学校の生徒に、海その愛基金の事業として環境と体験乗船の授業を行ったが、体験乗船の前日に海上保安庁小笠原署の係官より、ヨットは全艇旅客定員が0人であるので、体験乗船は違法行為との指摘を受けたため、体験乗船者は一時的な乗員との解釈で以前より全国的に開催している、と資料を示して反論したが受け入れられず、時間もないことから、止む無く岸壁に係留したままでの船内見学とロープワークを実施した。

大村：保安庁の上部から庁内に通達が出るように申し入れをする。

(1) 各団体からの意見について（各水域からの報告）

・理事選出方法の改正案について

望月：2024年の理事改選時に女性理事を40%以上にするために改正作業をしている。

水域推薦理事の部分を大きく変える案である。

現在、外洋系とディンギー系等が別々に選出されるようになっているが、合わせて選出するように考えている。ブロックでジュニアからシニアまで、一気通

貫にするようにしたい。

これに対して各水域から次のような意見が出された。

(北海道・東北)

石川：3月に東北6県の役員とZoom会議で意見交換を行ったが、中々女性の役員のなり手が少ない。女性の理事選出は難しいとの状況を共有した。

(関東)

井上：女性の会員が少ない。女性がなっても仕事ができるか懸念があるが、時間をかければ解決すると思う。

(中部)

岩瀬：東海では女性理事がゼロの状態。

(関西)

安田：女性40%の案は理解できるが、実現できるのか不安を持っている。

継続的に女性理事を送り込めるか不安がある。会員の内約20%が女性だが、ジュニアや学生なので大人の女性会員が少ないと思われる。

(九州・沖縄)

沼田：九州も各団体に女性の役員がいらない。JSAFの活動を理解している女性が少ない。外洋系は難しいと思われる。

大村：水域の会議に出たが、加盟団体が何をやっているのかが分からないと水域理事としては難しいとの意見があった。

・加盟団体規定について

望月：会員20名の条件に付いては、新規加入では求めるが、継続の条件としては求めないことを考えている。

(2) 各委員会、各水域報告

・委員会からの報告

(ルール委員会外洋規則小委員会)

日下部：6月10日にルール委員会が開催されるので外洋の意見を報告したい。クラブレースのサポートの予算が取れたので、今年度は実行したい。

(外洋計測委員会)

川合：ゴールデンウィークに向けての証書発行が一段落した。

現在の証書発行状況は、IRCが220艇、ORCが38艇となっている。

(通信委員会)

坂口：ホームページの準備と海岸局の調査を進めている。トラッキングシステム

(キールボート委員会)

委員長欠席、委員会の活動報告を予め配布済。

・各水域の状況

(北海道・東北)

石川：外洋北海道では5月から9月まで石狩湾シリーズレースが7戦開催される。

函館南北海道外洋帆走協会は、5月21日に全艇下架作業が完了し6月4日から月に2回のペースで10月15日の納会レースまで行われる。

レース後の懇親会も行われる。

青森セーリングクラブは年に数回程度のレースを開催する。

今年は初めてねぶたレースを8月5日に浅虫温泉沖の海面を使用してレースを開催し、夜はねぶた祭を見物する。レースより祭を楽しもうという企画。

第36回青函カップヨットレースは、今年は青森スタート、函館フィニッシュで計画。第44回津軽海峡横断レースを計画。

外洋いわきはレースに関しては休眠状態。

(関東)

井上：ほぼ例年通りにレースとパーティーが開催されている。

(中部)

岩瀬：22日に東海でエリカカップを開催、ピーク時は150艇を超えた参加があったレース。去年から再開、今年は前夜祭も実施できたが昨年、今年は50艇の参加であった。増えても60～70艇止まりと予測、レースから離れる人が多くなってきているので、その対策として普及事後の実施が話題となっている。駿河湾では4月、5月は普通にレースをやる事が出来ている。

(関西)

安田：ゴールデンウィークの3日に岬町長杯に30艇の参加があった。

翌日の4日の関空一周レースに48艇の参加があった。

ようやく通常のレースが開催されるようになってきた。

(九州・沖縄)

沼田：例年通りのレースができるようになった。

沖縄では座間味レースも開催される。南九州では5月に種子島カップが開催され、7月には三島カップも開催される。

玄海では毎月クラブレースを行っている。

(4) その他

鈴木祥子：JSAFのWEBサイトの資格やボランティア募集について、指導資格

者に子供の扱いの資格を持った指導者がいるか把握した方が良いと考える。
女性理事を増やす件については、女性が入れない理由を考えた方が良いのではないか。現在の理事会は時間が長いので、議題の整理についても考えた方が良く
いと考える。

大村常務より翌日の理事会の主な議題についての説明があり、中澤副会長の締め
の挨拶で 19：50 分に閉会となった。